

令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

人口減少を救う

日本一のカフェの里への挑戦

山口県周南市 「鹿野の風」プロジェクト

「里山まるごと木漏れ日計画 & 日本一カフェの里」

■背景

私たちの地域は県境で山深く、コンビニも無く不便で、高齢化や人口減少により、ピーク時9000人の人口が現在2800人を割り、10年後には2000人を切ると言われ、深刻さが増えています。並の地域振興では、衰退は止められません。しかしこのピンチは地域を一つにし、希望に変えられる重要な分岐点でもあります。

■設立

そこで11年前に「鹿野の風」プロジェクトを結成。限られた資源を活かし田舎の弱みを強みに変える「木漏れ日計画」をスタートし

ました。

■狙い

私たちの地域は広島や福岡から車で1時間余り。都会で暮らす人々には癒しや非日常を求めてさまよう人も多くいます。その受け皿として高速道路を活かし「行ってみたい、関わってみたい、住んでみたい」、そんな鹿野でしかできない町づくり（観光振興）を進め、最終的に鹿野を「日本一のカフェの里」にすることを目指しています。

■活動と今後

都会目線での魅力づくり…、身近な資源で新たな価値を生み出す取り組み…、他との差別化…、統一感…、持続可能な町づくり…。「木漏れ日計画」の名の元に、雑木と花の力を借りて、町全体の資源の徹底的な磨き込みを行



い、周辺地域に埋もれることなく、一年を通じて人・物・金・情報が循環し続ける仕組みを作ろうとしています。その最終形が「日本一のカフェの里」の実現です。

■活動その1 雑木植栽による木漏れ日計画

(2013年) 雑木(コナラ)には人を引き寄せ心を豊か



里山まるごと花と雑木による木漏れ日計画
里山オープンガーデンかの2022
2022.4.1(金)~5.31(火)

第3回目のオープンガーデン用のポスター



里山オープンガーデンと同時に各庭でコンサートを開催

オープンガーデンに参加。忘れかけた日本の原風景が唯一残る里。秋は1000頭のアサギマダラが飛来。

■連携5 隠れ家マルシェ (A・S・I・Sアズイズ)
来期からオープンガーデンと同時開催。町外からもたくさんの方の参加者と来園者で賑わう。(月1回の開催)

■連携6 参加型ガーデンによる新しいコミュニティの場作り



自由に集まり夢のガーデンを作りあげる会

にする力がある。その力を借り雑木を町中に植え素敵な木漏れ日の町づくりを進める。(雑木のコナラ等を8年で30カ所に計89本植栽)

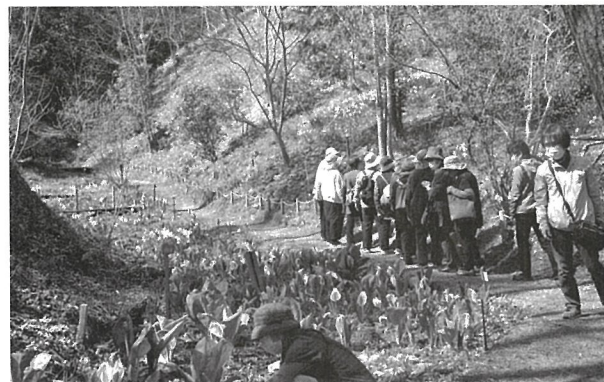
■活動その2 2オープンガーデンによる交流人口増計画 (2020年春)

花の力を借りオープンガーデンを開催。広島や福岡等都市部の非日常を求める層に地域の魅力を発信し交流人口増を狙う。(庭の開放3年目を迎える来季は26庭参加)

■活動その3 2木漏れ日ベンチ100脚の設置計画 (2020年春)

ベンチは人をつなぎ和ませる力がある。この力を借り花や木漏れ日の場所に設置し、里山のイメージアップや統一感・発信力に努める。(来季は50脚設置を目標)

■活動その4 2日本一のカフェの里計画 (持続可能な観光振興) (2022年)



「350種の山野草の花が咲く生きた図鑑の森」の保存活動

地域価値を高め交流人口が増えれば、カフェ等が起業し易い環境が向上。新規店舗増の推進強化を目指す。(現在6店舗のカフェが営業、今後Cafeの多いオンラインワンの里山を目指しています…)

里山オープンガーデンの成果

■特徴と狙い
山野草と雑木をテーマにしたオープンガーデンで、山間部にも関わらず20以上の庭やガーデンを一般開放することは珍しい。開催を重ねる度に反響は大きく、県内外から多く

荒れかけた地で、皆が自由に参加するワクワク花のガーデンと夢の森作りを進行中。新たなコミュニティの場作りを推進。

※今後オープンガーデンを二団体の主催で終わらず、周南市全体の総合企画として進めることで、より価値が高くなると考えている。

◆狙い

- 日本一のカフェの里・狙いと実現性
1. カフェ起業家は365日人を呼ぶ努力を重ねる。
 2. 地元農作物に付加価値を付け消費拡大。
 3. カフェは幅広く人を呼ぶ力がある。
 4. 都会から起業家が移住。
 5. 空家の店舗としての利用。
 6. カフェが一番起業し易い。
 7. 新しい雇用が生まれる。
- ※里山にカフェが増えれば増えるほど、商圏が広がり遠くからでも集客でき、客側は魅力が増す。

◆実現性

1. 我が町は山間部にも関わらず現在も魅力的なカフェ6店舗が営業中。地域の可能性の証。
 2. カフェを増やすには…
- (1) 地域の魅力を拡大…木漏れ日計画により、町中に木を植え、ベンチを置き、オープンガーデンを開催。

の人々が見学に来られる。県外数17%のうち、広島9%、福岡3%、下関2%、島根1%、ほか岡山、岐阜、神戸、長崎、横浜、札幌。(山野草のエキデータより)。来客数は、山野草のエキ約1万人・旧マルタガーデン1345人。(2022年調べ)

しかもオープンガーデンを核にした多目的な連携を行い、その相乗効果も大きく活動の輪が拡がり、可能性も年々広がる。

里山オープンガーデンとの連携

2022年度、周南市・周南市観光コンベンション協会が後援

■連携1 山野草のエキ
オープンガーデン期間中のメイン会場に設定。期間中1万人の来園者を迎えた、鹿野の交流人口を増やす救世主。

■連携2 鹿野米ブランド化 (鹿野高原米生産組合)
オープンガーデン来園者に750袋の試食(米2合)をプレゼントし、まずは鹿野米の美味しさを発信。(住所・氏名の記入時に)

■連携3 2野外コンサート・新たな文化と継承
オープン期間中に5カ所で野外コンサートを開催。「山田ガーデン・旧マルタガーデン・金峰の里・宮本ガーデン・911ガーデン」

■連携4 2金峰の里 (防長の吉野をつくる会)

(2) 魅力を発信：自然と癒しにテーマを絞り遠くまで発信する努力を重ねる。

(3) 持続的に交流人口を増やす…(1)と(2)の活動を積み重ねる。

(4) 起業したい環境を整える：魅力UP、発信力UP、交流人口が持続的に増えれば起業したい人が増える。

(5) 緑と花の魅力を増やすこと…徹底的に緑と花の魅力を増やす。

3. すでに広島や福岡からの鹿野ファンが多数存在。(その原因は1 山野草のエキ：年間2000人来客、高速道路とインターの存在)
4. 鹿野インターから広島と福岡まで1時間弱。そこに100万人都市がある。(高速道路とインターの存在)
5. 都会で起業するより、我が町で起業した方が格段に成功の確率が高い。その根拠として、(1)田舎での発信力が格段に高い。(2)初期投資が低い。(3)店が増えることで地域価値が高まる。(4)マスコミの話題に成り易い。
6. 日本一のカフェ実現の切り札として、鹿野総合支所跡地に木漏れ日の森と、水と木の香りをテーマにしたカフェの建設を提案。
7. 行政とのバックアップ体制の確立。高齢化や人口減少の問題解決は行政の根っこの業務。行政の役割は大きい。

(鹿野の風)プロジェクト代表 福田清治